



「津軽の桃」のロゴマーク



箱詰めされる「津軽の桃」

8千万円を超えました。うち28年度は710件、1万7千本で、29年度は818件、2万本と増加の見込み。生産者は苗木更新による計画的な園地の若返りや労働力の省力化を図っています。

また、当JAでは「津軽の桃」のロゴマークや地域商標登録によるブランド力強化を図っており、近年桃の作付け者および栽培面積が増加しています。桃の苗木も22年から28年度まで144件、1800本、

助成金額103万円となっています。結果、29年度の上実・加工を合わせた入庫量は前年比131%の185ト、販売額は前年比107%の6700万円と年々増加しています。桃の生産量増加にもない、一次加工した桃を製菓会社やJA加工施設で加工商品にし、「津軽の桃」ブランドを広めています。

さらに、ビニールハウスへの助成も増加傾向です。ビニールハウスやUVカットビニール、遮光資材の助

成では、28年度の管内の申込者はハウスで24件のうち新規就農者4人が助成を利用。苗の助成もあり、新規就農者や増反者にとって栽培しやすい環境となっています。ハウス助成の大半はミニトマト栽培を計画し、生産量も年々増加しています。ミニトマトの29年度は前年度から14人増えて129人が作付け、面積は前年比115%の14ヘク



助成を利用するハウス

タールに拡大、生産量は前年比127%の814トン、販売額は132%の5億7千万円を超え過去最高となりました。

JA助成事業を通し、複合経営の推進や園地若返りによる農業生産基盤強化を図り、新規就農者の増加や農産物のブランド力強化につなげています。今後も基盤強化を続けながら、新規就農者や若手生産者への営農指導支援、高齢などによる労働力不足への対応なども強化し、さらなる産地力強化を図ることに引き続き、自己改革を推進していきます。

実践！自己改革

当JAは、第27回JA青森県大会決議に基づき、「農業者の所得増大への支援力発揮」、「地域活性化への貢献力発揮」、「JAグループ青森の組織・経営力発揮」に取り組んでいます。今月は取り組み状況をご紹介します。

◎農業振興のための助成事業

農業再生基盤強化による地域農業への活性化へ

「農業者の所得増大への支援力発揮」として、地域農業の活性化のためには農業生産基盤強化が必要と考え、合併2年目の平成22年度から農業振興計画を策定し、その計画に関わる助成事業を行っています。

当JAでは、生産力の強化と農業所得向上のため、りんご・米・桃・ハウス栽培など複合経営を推進。座談会や部会など組合員から直接意見要望を伺い助成内容を盛り込んだ農業振興を行ってきました。当初は年間事業予算が上限4500万円でしたが、組



スピードブレイヤーに取り付ける花粉噴射機「フルーツパウダー」

合員からの要望を叶えるため25年度から5千万円に引き上げました。

りんご受粉率を上げ高品質生産のため、巣箱更新による

マメコバチ増殖や授粉機、花粉購入などへの助成、園地の若返りと有望品種の導入のため、JA推奨品種苗木への助成など生産力強化を図りました。JA推奨品種では、着色系品種と黄色品種を推奨し、労働力の省力化を狙います。助成事業の4分の1を占めるりんご苗木は、一人につき最大50本で1本あたり700円以内の助成で、22年から28年度まで合計6100件、12万2千本、助成金額は



ズラリと並ぶ苗木